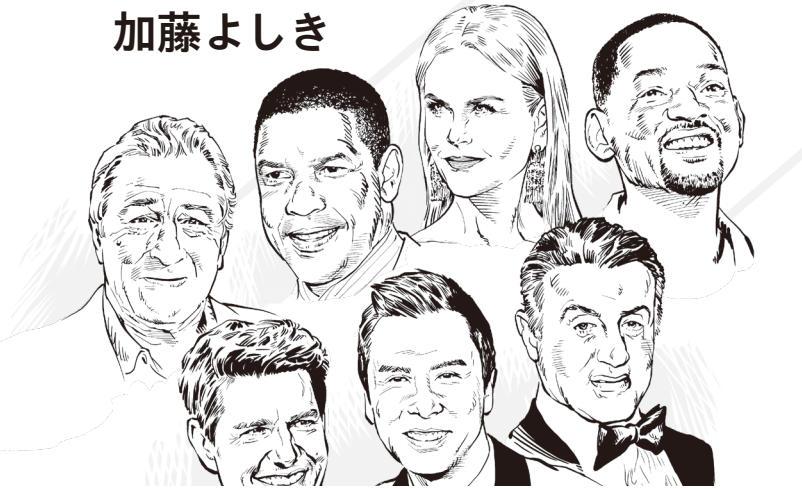
読むと元気が出る
スターの名言

ハリウッドスーパースター列伝

加藤よしき



ロバート・デ・ニーロ、トム・クルーズ、
ニコール・キッドマン、ウィル・スミス…

14の錚々たる巨星（スター）の波瀾万丈な生涯が語る人生哲学！

人生のことなら
スターに訊け！

読むと元気が出るスターの名言

ハリウッドスーパースター列伝

加藤よしき

星海社

226

SEIKAISHA
SHINSHO

はじめに

ハリウッドスターとて人間。スターだって、お仕事です。生き方は十人十色。歳もとるし、失敗もするし、奇行に走ることもあります。弱音も吐けば、強がることも。嘘だってつくし、嘘がまことになることもあります。

ですが、有名人である以上、すべての行動は何らかの形で残るのです。映画作品だったり、ゴシップ記事だったり、自伝だったり、インタビューだったり。そうしたスターの足跡を辿っていくと、おのずと人生が一つの物語として見えてきます。スターの経歴をまとめつつ、その人のイケイケの若手時代の発言と、大成したあとの発言を比較するコラムを作れば面白くなるのではないか？　歳を重ねることで何がどう変わるのか、逆に変わらないものは何なのか？　こうした点が見えてくるのではないか？

そんなアイディアから、本書の元になるweb連載コラム「老後に効くハリウッドスターの名言」はスタートしました。

今まで14人のハリウッドスターを題材にして、あれこれ資料を漁って記事を書いたのですが……ま〜〜本当に生き方って十人十色。しかしスケールのデカすぎるエピソードに驚く一方で、ハリウッドスターも私たちと似たような部分もあるのだなと思いました。

たとえば……私は東京砂漠で会社をいくつも転がりながら、現在も週5出勤の会社勤めをやりつつ、兼業でライターをしています。仕事をしていると、やはり嫌なことや辛いことが押し寄せてくるわけで。「これ、絶対に上手くいかねぇだろ」と思いつつ、しかし現場にいる人間としてベストを尽くすことを求められたり、この令和の世に「24時間働けますか」精神を持っている人と付き合う羽目になったり。完全お通夜ムードの現場を、サンバカーニバルにしろと命じられたり。こういう目に遭うと「働きたくねぇ」マインドが抑

えきれません。けれどその一方で、働いていると楽しいこともあるわけで。同僚から何気なく褒められたときや、仕事の苦労が報われた瞬間、それまで心にあった「働きたくねぇ」はスッ飛んで、どこからか「今まで頑張ってよかった」「もっと頑張ろう」の気持ちが湧いてきます。人間、イイ加減なもんです。

話を戻すと、たぶんハリウッドスターたちも似たようなもんです。

この連載は、あくまでスターの過去の発言や記事から一方的に私が物語を読み取ったものなので、ノンフィクションとは言えません（ですからタイトルに〝列伝〟を入れてもらいました）。引用しているインタビューだって、ひょっとすると数年後には「ごめん、あれは嘘でした」となるかもしれません。

しかし一つだけ確実に言えることがあります。

それは、総じてハリウッドスターたちは「スター」であることを仕事だと捉えていることです。自分が「映画」という巨大産業の一部だと自覚したう

えで、多くの人間と同じく「辛い……」と「頑張るぞ！」の間を行ったり来たりしながら働いているのです。

あとはスターごとに仕事への取り組み方が違うだけ。「私生活を優先して、仕事はほどほどに」というタイプもいれば、「仕事にフルコミット！」タイプもいます。「自分が業界を変えるんだ！」という人もいれば、「自分のやりたいことをやるんだ！」という人も。転職する人だっています。

働く姿勢に正解はありませんし、この本でも、唯一無二の正しい生き方なんて提示できません。しかし世の中には色んな働き方があって、色んな成功の形があるということ。そして自分に合った生き方をするのが一番だということは書けたかなと思っています。

ですから、この本に載っている色々なスターたちの生き様に触れたあとに、

「●●みたいに頑張ろう」

「この××みたいにはなりたくない」

「△△には負けたくない……！」

……このように、参考にするもよし。反面教師にするもよし。ライバル心を燃やすもよし。この本が「自分に合った生き方」を見つける助けになれば幸いです。

最後になりますが、本業との兼ね合いで不定期連載になりがちな私を、臨機応変に支えてくれたLIFULL seniorの担当編集である北山典子様、明らかにwebサイト上で浮いている連載を許してくれた『tayorini by LIFULL 介護』編集部の皆様、そして書籍化の声をかけてくださった星海社の片倉直弥様、何より今日まで読んでくださった読者の皆様。この本は皆様の協力なくしてはできませんでした。本当にありがとうございました。なお元が連載コラムという性質上、「この本、あのスターがいないじゃないか！」問題はありますが、その点はご容赦ください（すみません、特にシュワちゃんは最終回にとっておきたいんです）。

目次

はじめに 3

第1章 トム・クルーズ
宇宙へ飛び立つスーパースター 13

第2章 デンゼル・ワシントン
時代を切り拓いた先駆者にして指導者 29

第3章 ニコール・キッドマン
映画界を変える女帝 45
第4章 トム・ハンクス
世界で最も等身大なスター 61
第5章 スティーブン・セガール
最強幻想に生きる男 75
第6章 ニコラス・ケイジ
現代アメリカ最狂の奇人怪優 89

第7章 ピアース・ブロスナン
世界一有名なスパイからサクっと転職した男 105

第8章 ドニー・イエン
「宇宙最強」の異名を持つ香港映画の至宝 117

第9章 リーアム・ニーソン
五十路でアクションスターになった男 133

第10章 ブラッド・ピット
ハリウッド最高のセクシー現人神 147

第11章 ウィル・スミス
優等生スターの成功と苦悩 161
第12章 ロバート・デ・ニーロ
ハリウッドの生きる伝説 175
第13章 ハリソン・フォード
時代を作ったスターは職人気質 191
第14章 シルヴェスター・スタローン
挫折と栄光、そして絶え間なき挑戦 207
参考・引用元資料 229

TOM CRUISE

トム・クルーズ

宇宙へ飛び立つ
スーパースター

26歳になるまでは、やりたいことを何もかもするようなことは慎んでいるんだ。

ポール・ニューマンくらいの年齢（※当時61歳）になる頃には、彼が演じているような偉大な役をやっていたいものだけどね。

——1986年、24歳のインタビューにて『トム・クルーズ　キャリア、人生、学ぶ力』（南波克行編著、フィルムアート社）より

※は引用者注、以下同じ

無茶しまくり！　米軍をも心配させる60歳

トム・クルーズが大変だ。60歳にして、立て続けにアクション映画で主演しているのだが、明らかに若い頃より無茶な体の張り方をしている。普通は歳をとると体への負担を減らしていくものだが、彼は世間一般の真逆をいく。何しろ最新作『トップガン　マーヴェリック』（2022年）では操縦こそしていないものの、本当に戦闘機に乗っている。つまり超高速でグルングルン曲芸飛行をする飛行機の中で演技をしているのだ。

近年では、代表作『ミッション：インポッシブル』（1996年）で本当にビルからビルにジャンプして足を骨折したり、潜水シーンのために水中で6分も息を止める訓練（どんな訓練だ）をしたそうだが、それにしたって戦闘機に乗り込むのは別次元だ。肉体への負荷は大きいし、もしミスがあれば大事故になる。スタッフはもちろん、撮影に協力している米軍だって気が気でない。米軍を心配させる俳優なんて他にいないだろう。このスケールの大きさ、まさしくハリウッドスターの鑑（かがみ）である。

彼の輝かしいキャリアを振り返りながら、彼がどんなふうにキャリアを重ねて来たのか、何故（なぜ）に60歳手前にして戦闘機に乗り込むことになったのか、そしてどこへ向かっているのかを考察していきたい。

青春漫画よりスゴイ！　展開が早すぎる10代

トム・クルーズ、本名はトーマス・クルーズ・メイポーザー4世。

高校時代はレスリングに熱中し、選手としてかなりイイ線にいったというが、アキレス腱断裂で選手生命を絶たれる。幼少期に受けたイジメ、両親の離婚、選手生命の危機と、10代にしてかなりの激動の人生を送っているが、ここから彼の人生はさらに加速する。

レスリングから身を引いたトムは高校演劇の世界に身を投じるが、彼の舞台の観客の中に偶然にも芸能エージェントがいた。エージェントはトムの楽屋に突撃すると彼の才能を絶賛し、一緒に仕事をしないかと熱弁。この気合に胸を打たれたのか、トムは高校卒業後にプロの俳優を目指してニューヨークへ向かい、無数のオーディションを受ける。まるで青春漫画のような展開だが、トムの人生は漫画より展開が早かった。

19歳で映画デビューを飾り、早々にその存在感が注目を浴びる。そして1983年には映画『卒業白書』に主演。台本には「パンツ姿で家中で踊る」と1行だけ書かれていたシーンを監督と膨らませていき、結局は1分近く踊り続ける名シーンを作り上げ、ゴールデングローブ賞主演男優賞にノミネートされた。まさに新進気鋭の若手スターだ。

一方で同時期にしっかり痛い目にもあっている。『卒業白書』と同時期に主演した童貞を

捨てるために旅をする若者たちを描いたコメディ『爆笑!?　恋のＡＢＣ体験』（１９８３年）は、本人的に出演に乗り気ではなかったが、エージェントに出演を命じられて断り切れず出たという。結果、映画は興行／批評の両面で失敗した。邦題が『爆笑！』ではなく『爆笑！?』と「?」マークがついている辺りに限界が感じられるように、日本でも劇場公開すらされなかった。

後のインタビューでは本作での経験を「自分が何をやりたくて、何をやりたくないかを学んだ」「よいスタッフと、よい監督とだけ仕事をしなければならない。そうして成長しなければ」と語っている。この発言の通り、彼はここから仕事相手を一流映画人にしぼってゆく。高額のオファーでも意にそわない役なら断り、逆に出たいと思ったら自分から営業に行った。

運命の出会い！　才能が爆発する20代

フランシス・フォード・コッポラ（『ゴッドファーザー』『地獄の黙示録』）、リドリー・スコット（『エイリアン』『ブラックホーク・ダウン』）、マーティン・スコセッシ（『タクシードライバー』『アイリッシュマン』）……この頃にトムが組んだ監督は巨匠ばかりだ。おのずとトム・クルーズというブラ

ンドは高まり、ルックスだけではない、実力派俳優としての評価も固まっていった。

トムのブランド力を一気に高めたのは、言わずと知れた戦闘機映画の傑作『トップガン』（1986年）だろう。無鉄砲な若きパイロットの挫折と成長を描いた青春モノで、コテコテのロマンスとド迫力の空中戦が話題になり、世界中で大ヒットを記録。レザージャケットに大門サングラスことティアドロップ型サングラスでキメたトムは、どこからどう見ても文句なしにカッコよく、世界中でフォロワーが続出する。ここ日本でも織田裕二主演で戦闘機映画『ベストガイ』（1990年）が作られるなど、大いに話題となった。

冒頭に引用したトム・クルーズの発言はこの頃のもので、ポール・ニューマンに言及しているのは『ハスラー2』（1986年）で共演したからだ。ビリヤードに人生を懸ける男たちを描いた『ハスラー』（1961年）の25年ぶりの続編で、トムはポールに挑戦する血気盛んな若手選手を演じた。そしてこの作品でポールは61歳にして、アカデミー主演男優賞を受賞している。

そして89年、トムはオリバー・ストーンの『7月4日に生まれて』（1989年）でアカデミー主演男優賞候補になる。アメリカ独立記念日である7月4日に生まれた少年が、やがて愛国心に燃える青年となってベトナム戦争に飛び込むが、戦地で悲惨極まりない体験を

したうえに、やっとの思いで帰国したら社会のゴミ扱いをされてドン底まで落ちていく。本作はベトナム帰還兵モノとして高い評価を受け、アカデミー賞の受賞こそ逃したが、トムの俳優としての評価は頂点に達した。

ついに社長！　勢い止まらない30代

トムはひとりの俳優として80年代を駆け抜けた。そして90年代になると俳優の領域を超えて、映画制作者としても活躍を始める。１９９２年にはクルーズ・ワグナー・プロダクションズを設立し、プロデューサーの地位を得た。ちなみに同年の来日時、彼は日本の記者に名刺を渡したそうだが、そこにはカタカナでトム・クルーズ、漢字で「社長」と書かれていたという。スターとしての来日インタビューの場で名刺配りをしているあたり、彼の経営者としての本気度が窺い知れる。

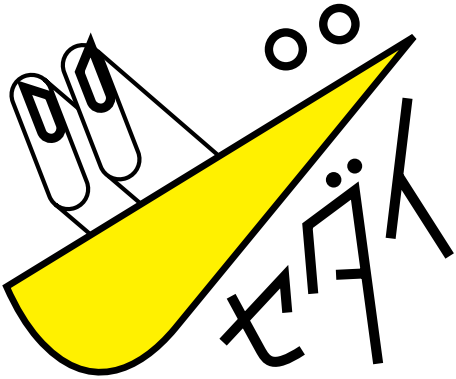
俳優業も相変わらず絶好調で、法廷映画の傑作『ア・フュー・グッドメン』（１９９２年）のような重厚なサスペンスから、不老不死の吸血鬼らの耽美な世界を描いた『インタビュー・ウィズ・ヴァンパイア』（１９９４年）、とある夫婦の性生活が暴走していく『アイズ　ワイド　シャット』（１９９９年）、カエルの雨が降ってくる中での群像劇『マグノリア』（１９９

9年）といった作家性の強い作品まで、幅広く活躍する。後に大変なことになるスパイ映画『ミッション：インポッシブル』シリーズの1作目を立ち上げたのもこの頃だ。

トムの勢いは留まるところを知らず、90年代を猛スピードで駆け抜けていく。なお先述の名刺を渡したときのインタビューで、本人は自分について以下のように語っている。

「ガキの頃からケンカ、しっぱなしだった。鼻を折ってしまったくらいハデにやってきた。不良と呼ばれてきたけど、でも、命だけは粗末にしなかった。自分なりに精一杯、生きてきた。きっと生きることが好きなんだろうね」

精一杯生きる……それは今日も一貫しているトムの人生哲学だ。しかし、人生はそう上手くいかないもの。40代、世間一般でいう中年にさしかかる頃、トムのキャリアに初めて陰りが見え始める。



何と闘うか？

https://ji-sedai.jp

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

ジセダイイベント　著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！　行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研　若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み　既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!